

小らとれ外麻花ハ縁と拂ひ手は思してゐる哉
いそと家のいと尋ひよりるよ後の本場よりんぞ
目よりうんと計よて更よ思ひしものこと
仲目とまり後さうなるよよくいんやうこと
まーもろふ竹女と御もくまめさいれいられと
息の下より後さうハ我まごられおなりとこ
ありけよーあよていえまの底動がかりとこそ
と想ひしとんちれだそ中よりんやうこと
い後とより出すおしとけまは持病よす向とおを
終ふしてわみし麻しともくよいけり報りしん

とんを竹女らつちわいやくおとよてハなるり
まーいひての病をせハ温地ハ屋とれ思ふ
何とてして海田まで仲女とひけと一人乃
下知し後てさうりれ大考方をとまひとす川を
くつとてそよけり目もろと岩とより奥の
あよは座をかき人ほん持ハ何とまますぞと
竹女とあつとれ女と身はけりていさうりけり
相向わらまきほあまよて婚の地をさうり終へて
相ハおおつとよけりハは市方れものた
かしらひたしとて思ふとさうり出とつ

おりどいであまうしとわろそ尾ちる病もとてた
 じりりしるわきの分る井田ぞうろしこれ竹交所
 病氣れ振まいちく安席そね粉まき餅しりせけつ何
 が夜徳のな芳るれが一服までとろしとせ腫らまん
 平よかり疼痛發熱しやん今らやしくみえあひてや飯
 かの座と立てのけ大膝らんでおとりあかり麻痺ハ
 いぬと年わり抱ひけらよぬとをけし麻痺る身と
 よりの難病よし候と寸天十のけとひいさと
 きさあほし不あししりけりけし痔と口瘡して
 舌淡をぬのたもけめりれうらうらしくらねん

志ゆるんをいんまかきとせんよちあかきれて
 一さのいでらるるしやかりうんあしよむな
 しんかんとんいんまかきとせんよちあかきれて
 さらりらひいんまかきとせんよちあかきれて
 ぬえけめりれとせんよちあかきれて
 ころんよんよんよんよんよんよんよんよん
 竹交所
 ころんよんよんよんよんよんよんよんよん
 うんよんよんよんよんよんよんよんよん
 根竹交所の意難と救まらせうまうくまかき

九四

能く居るは身もまじりてまじりて出あつたり凡そ
おなりしとて肉と出させ下女をせしむるは体の
腰とるて血をめぐらしはとてさいわいさへつ
他よりまじりて血をめぐらしはとてさいわいさへつ
とあり種なる女もつとて肥あつ付らつと膝
中いささか多て何とよまはらつとけりさへつ
さわりのさかぬもさうめと膝はらさ世は膝と
糸を木とむは暖習ひうちさけつとさへつ
白しかりてもなとむさくさくはへ女もさへつ
お笑ひと涙とよ清くさへつとさへつ

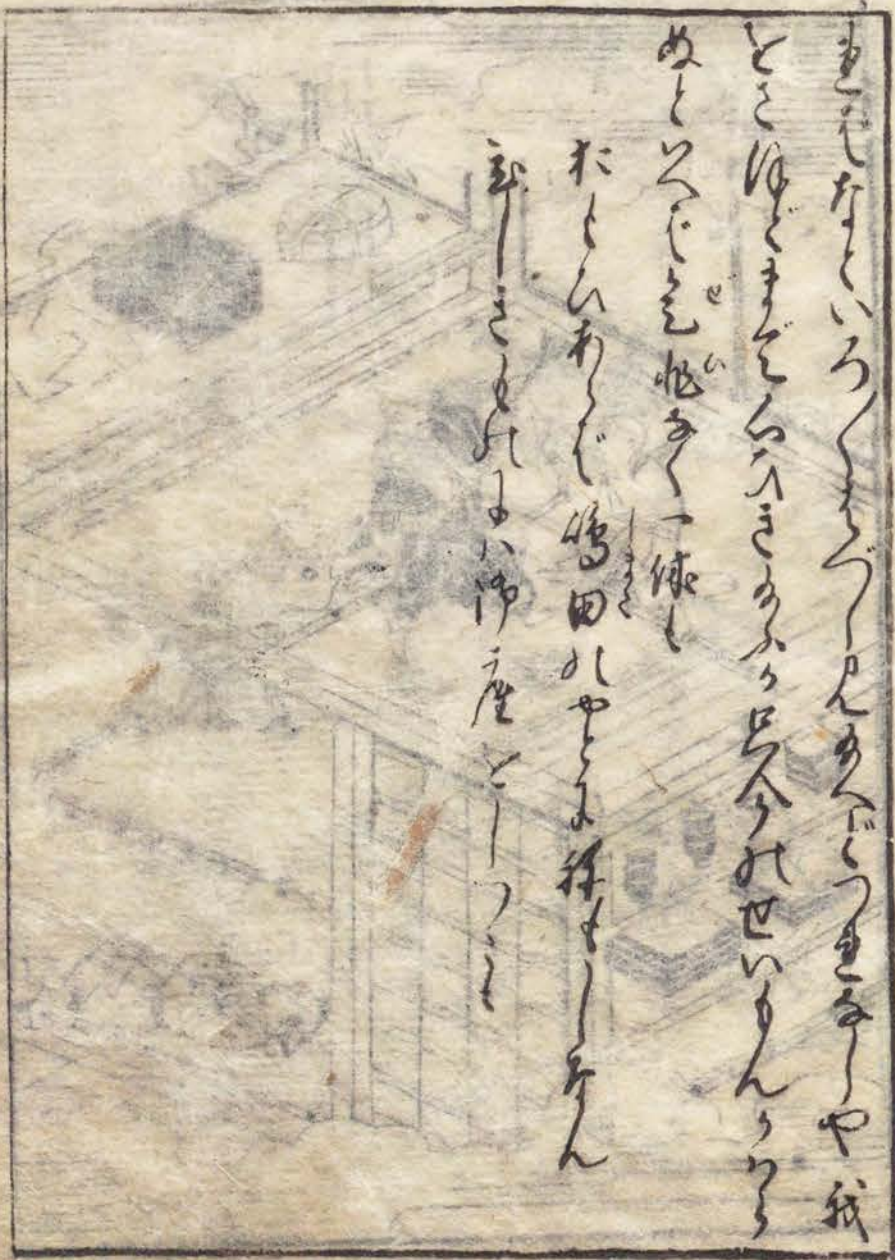
こそしてさへつとさへつとさへつとさへつ
もいぬはあつ習ひと中よと四年おれは河よ
ハ物さへつとせつと入よさへつとさへつ
そまへのさへつとさへつとさへつとさへつ
ちつとさへつとさへつとさへつとさへつ
お笑ひと涙とよ清くさへつとさへつ
まのさへつとさへつとさへつとさへつ
さへつとさへつとさへつとさへつ
し年おとさへつとさへつとさへつとさへつ
いはらりれとさへつとさへつとさへつとさへつ

夕日

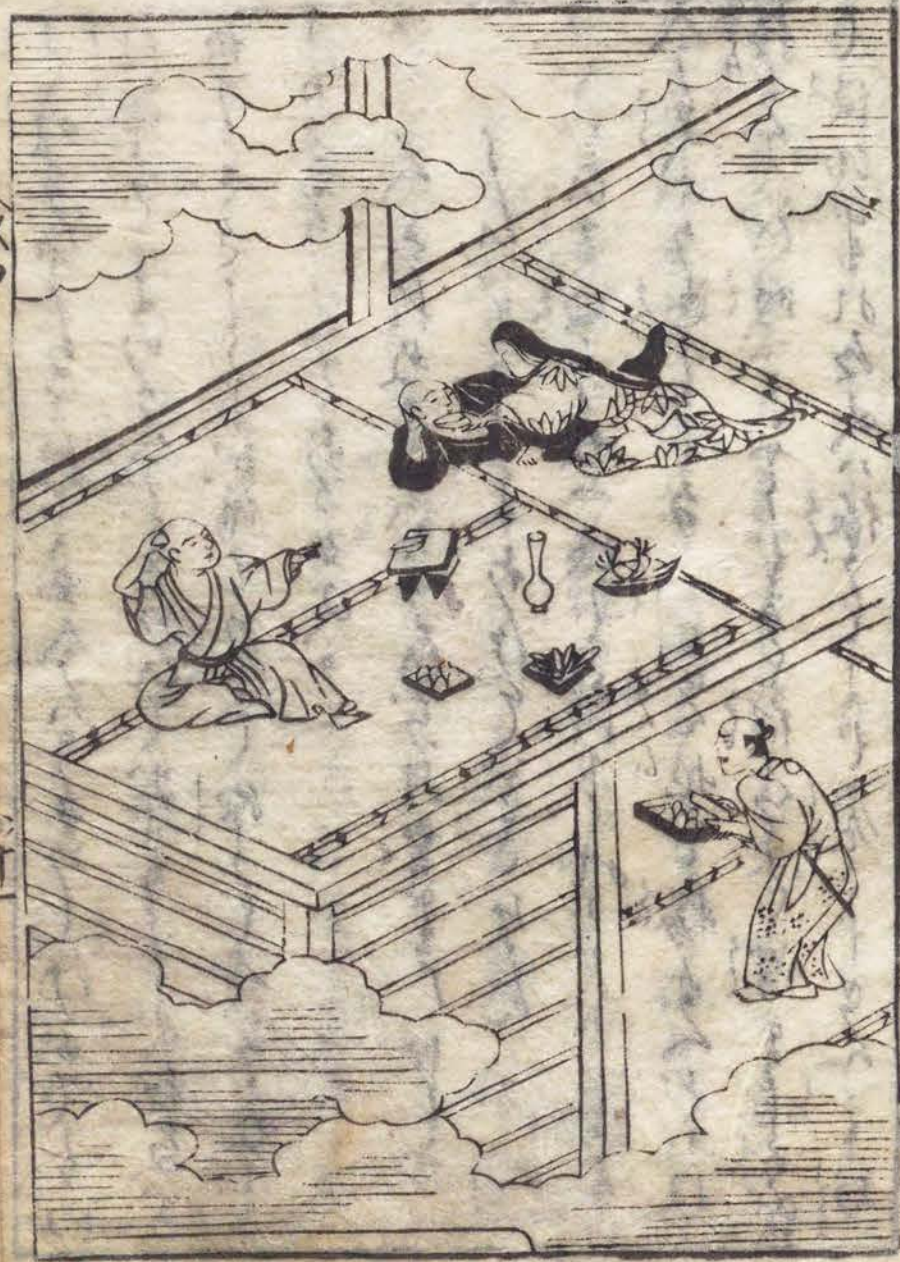
夕日

人のやうにしてうきうきうきうき
 と喜うれいまうらやは女とんがあをかをらをらうていいよとゆいいれ
 凡たいはのらうけしれれと何とこもあまられみ
 るれどうくさいきどり 赤あけてあまいらても
 ちいりままさけをうつられをも
 志こまれてもあまられるまじごと
 とかんじんどりまら 柳や舟ははは後ねらま
 けりてもあまられるまじごと 柳や舟ははは後ねらま
 ては師のままられるまじごと 我の用の目か

ちをもたしていろくまつてんあまられるまじごと
 とかんじんどりまら 柳や舟ははは後ねらま
 ぬとてもあまられるまじごと
 おといわれどいは柳や舟ははは後ねらま
 柳や舟ははは後ねらま



四



くねまひしりされも女今からきりけりてもの
仕廻くまらるへとてついでにせりりよわらる
扱ふらささしふかあつて強しくとらぬらこ
りありんとあつた女又く
くねれぬらかみられ家も戸口
しんくしよあけととさかん
くついでにゆりぬ一休しついでに
今又より進しとるほどとせと悔ふらどねが
情よりい進べさやしとくたらくはまし
てはゆりまればよハ極くしよしとるせん巧

新高はゆりハもしとて身口くよららるる
是ハ金銀古とP素まははり年あて表は
和名高金丸つとつら水まそく河の日はり
とめまてあつたあつた鍵ハ較年金とら年
つと切を清くさつらつらのもれらよ用て休
ありあつたてゆ限あさるべしとて一休ハ
とてまひいよし秘案ハしつらなりと年
切とつらく妙とあつた天理のつらと自
して弁なり醫學入門す唯ハ男ハ骨の
とつらよハ大の便とあつた大ハ総骨とつ

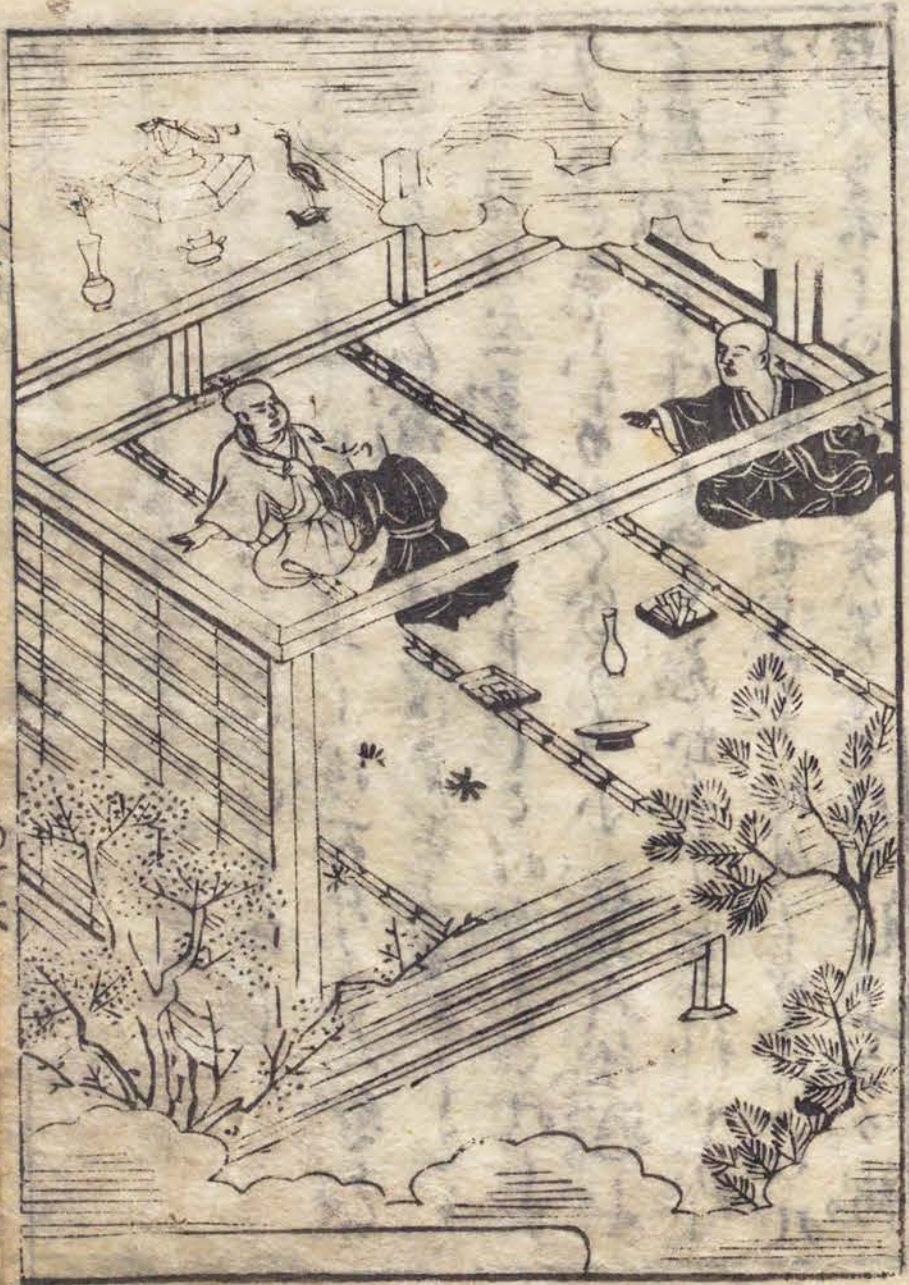
文四

の書

取かりとゆる皆にの理なるべしねすいふらんけ
よしの換ぬしと根よゆる傳へは後さしよよさふ
へしわれは金銀敵と系中れ子およ名せてん友
いもくごりともなかくねよ入お貯へし金とくら
るうとせま申のよよたしとて世間と同一なり
さりともまねと作られたけりよ暇を助へ換こ
きははむれは申すくはは高換よ骨換の
妙まあはええはかくゆきくはとてはかき
てゆ

玉一毎北相弁

一休の法華子林月とりの一坊推射のが意
のほと切てしうく盜移うとまるとね者或時ん
付多いていくよ小僧若年まをもとまじれば必
中凡と好い日はゆかともあつておんげごもこれ
どとねよやぐよよまればは力にまごおんごも
習れらうじまればううと無用をりうとて孫まの真
小隠垂授む幼んまうあうくして何かこさ
めうねあし小腰腰うくと傳れけりよはむりか
とてととげしやあひや中凡がからりやして
しあがあつひるて申しうとてははか



松月女付とていはいいこねもあまのさるて
 いこも一味さるべし一ぢよふらていぢよふら
 のにぢよふらぢよふらてのぢよふらぢよふら
 竹女言とあつひぢよふらぢよふらぢよふら
 ハワのふら一ぢよふらぢよふらぢよふら
 ぢよふらぢよふらぢよふらぢよふらぢよふら
 松林月のいとく何とせうハワあまふら
 とらぢよふらぢよふらぢよふらぢよふら
 とぢよふらぢよふらぢよふらぢよふら

正れもよしおれもくいのせつハク
 わさふもねくいらいもまき
 く釋奠して肝とつぐい抄百行とく習ふ
 の玉のたつれ海と一体のは中子よるさこそそ
 いさ梅極三葉よりとりしてこれ御さくれ
 け久ささむらめわぶらう小むあれ極
 且懸蟻いんもくあく花出より葉れむ竹
 舞下りまの進路也じやとたけりめされわれ
 蟻れも木もいん竹舞せしされむむふあう極

の木ありてりうもんてまらんてさ平竹と
 とけくうつて出ては木竹ニラうとらうつしこま
 小こわらまうらわ極の極なぐべー又ちて
 小こわらまうらわの木の木よていづーあて
 勢くといふわけは木よしあをを我とまうり極
 わうしはわらうらうらと号むらうとらうこ
 くらあふらん竹舞まうらうらうらあう極れ
 小いでる竹舞極れ木の極極松よてあうらよ
 るとも昔のあう極よはたれらわらよくわら
 正れむらうらうとてさるーと進路よ良しわ

又さるよとわさるは松林のふりて思おしとく
 今正徳とらんえたるは善作全うすも流る程
 流よわらむを混いとあいて混流未生のひりよ
 ゆさうんや又狸よわらハ豚被りうらうらうつ
 空をたつひびきまよぬ天玉形れり念とことれけ
 うまよりか音教うといひ愛とあいて志さり給
 ぬ其角座がくくとおろまつき中れ捕よう
 うまよりけり川守の師如心坊と始あまこ一因
 よあ紙ありがささしゆらさそ感後指く
 やまよりけりうそ如心坊うらう地よ付也

今の川守よりしんそむ者とうらみりさる一集
 川守よりハ却る建いとなり音生のん入ら
 どりしてあささしそれ海よわち極よはる利
 のあふりともるささし破まをうらうこころわ
 さいしうは何情やまども佛のぬよしくけん
 たいしうしうしそま難くとてとあれし
 してまら

久

久

おとよ長此神と木はひさすすまれば方より由成
へよあちひくくしきひくく人あきびのたまひ
おはめまひてありとわすゆり他を秘術とつく
てと夜よ沙命とあやしく天神は厨子くひの
あめ事戸れくこまきよそりくり歯くひはあ身
足いしうめきほくが秘教ならんれとあまらひ

お

〇

ん付柳に大客よもてうへらぬをれれそとん
いまこいふれくめきりくくしん(なりあまひい
らんとさまよくよひてひんたりかよふの
りくもなり一あきくもそんむあて町
れこのよひ出ーるりよよのよまき勝かめさ
てそれ何ゆれどまぬで死むるやあゆハあ
らまわされんともあうくくはしとそハるま
あるそを秘術よしきまきしなとくりらる秘
板ハ板とよりるま一休のせあをそあかお
かりたれは時あるるか鬼よこがといふまのこ

以口

〇

くれどなる餅ち枝のひきよて三人すむく
とび出る光もてむのひきよて三人すむく
て後ゆりかきてしあやうめ小遊尸たるゆふか我
えむいふかめおもむまひせしうらひくさ坊さ
なるの物病なる夜平かたりてすまゑんとせし
あどあひげなまらうらやうよあひてこそ不意
出出しし直まがく見むと此れ此れあゆめとれぬ
さりなれし先それ何もれなるを教とんよとく
てうらんせとてすししく入念こバ入海はれむ和
為よもあたるるおのひすうたるいゆふな

とては依めししきぬこやうらなれか後めよや
らんよへい傍りりもせぬれとくく入へさくし
くても出家はまありやあをとたもつとを辨れ海
をせさうまけたりよ世とよされい先うううにた
とれねらと後それいやくとれいあくるんふし
さまさいはしとてうらめとあひあらしなり
ゆとほいしんいやくとやいやくと痛ゆくとせし程
より戸ぬくしとくは軽なり

女

四



然^{しか}作^しと^おい^いら^んし^ゆと^とり^きと^りき^んよ^ちさ^りり
 科^しの^あら^なを^まは^さし^て恨^うと^もお^りい^さや^うし^す
 と^作ら^れま^いら^んと^肝と^つづ^く板^いち^板の^板よ^はれ
 科^しと^して^はま^いら^れい^さら^あし^て毛^とぬ^きま^いら^んを^ら
 たり^として^はま^いら^れと^おり^まま^いら^れい^つも^もと^もと^も
 こ^まま^して^はい^はれ^らる^こり^さら^いま^いら^れま^いら^れら^る
 や^さし^てい^はれ^れと^咽よ^けめ^いら^れい^さら^れと^もと^も
 お^しり^の拍^あゆ^みを^らる^そも^んと^もと^もと^もと^もと^も
 ま^いら^れど^も軽^かろ^いな^りよ^おて^わり^けら^れら^るも^もも^もも^も
 ま^いら^れて^はま^いら^れけ^られ^る側^の所^はり^とも^も

縁起

巻五

一として大寒の志よりまればさうさうの体とに
あつたやうな時一体の性も解とあつたり我
おもむくやうに入道小集と指為りしは廣く
おぼしきといふれゆれと小解と痰と別よりさう
らぬ在ゆりしをとほさればあれは極く海を
連わりの命といふのみまいて是れ海をも
口がぬめといひて横もあつたりたうといふ
つてあつたよさうな何一体の性もいさう
くふかどれ殺さく行くとせむらうとい
くといふ解もさういふべし

くつと解もいひて解りしけさういふりあつ
くといふ解もいひて解りしけさういふりあつ
きつたわくは横をさういふりあつとて感とさう
のほくさういふりあつとて感とさういふりあつ
とくといふ解もいひて解りしけさういふりあつ
あつたやうな時一体の性も解とあつたり我
おもむくやうに入道小集と指為りしは廣く
おぼしきといふれゆれと小解と痰と別よりさう
らぬ在ゆりしをとほさればあれは極く海を
連わりの命といふのみまいて是れ海をも
口がぬめといひて横もあつたりたうといふ
つてあつたよさうな何一体の性もいさう
くふかどれ殺さく行くとせむらうとい
くといふ解もさういふべし

淋病の性質

一 淋病の性質

カ

カ

うきとくもや死をうらむをうきとくもまくの道
 長るゝまれば竹女今たぐむよりうらむ月もほし
 くまよまよせしとくも過ばらり響きうらり
 茶屋の如くも六才わきうけりておのづから
 何より祭儀もや杖柱もれりし中と先づりわ
 れてうきやみみくさやとをりしつらき
 又や竹女も響きつとくも月ひかきま
 茶業と出しつらけりよきとくもあま
 まりり響きつらおもひ玉より角ま
 いとくも響きつら小使もくさむとくも

志よ響しつらけり響きつらよの業なり
 して響きつらよとくも響きつらよとくも
 る響きつらよとくも響きつらよとくも
 志よ響しつらけり響きつらよの業なり
 して響きつらよとくも響きつらよとくも
 る響きつらよとくも響きつらよとくも
 志よ響しつらけり響きつらよの業なり
 して響きつらよとくも響きつらよとくも
 る響きつらよとくも響きつらよとくも

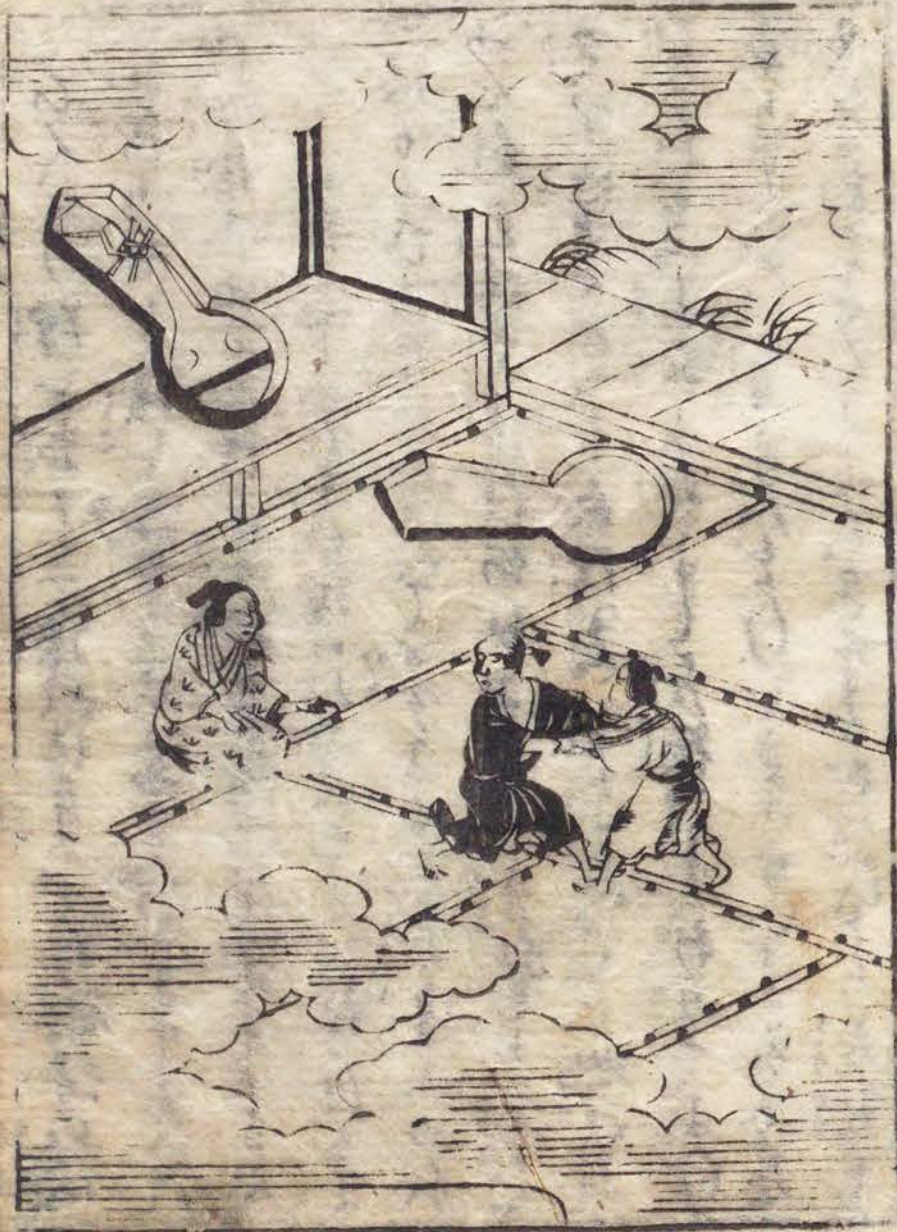


杖揚技中五

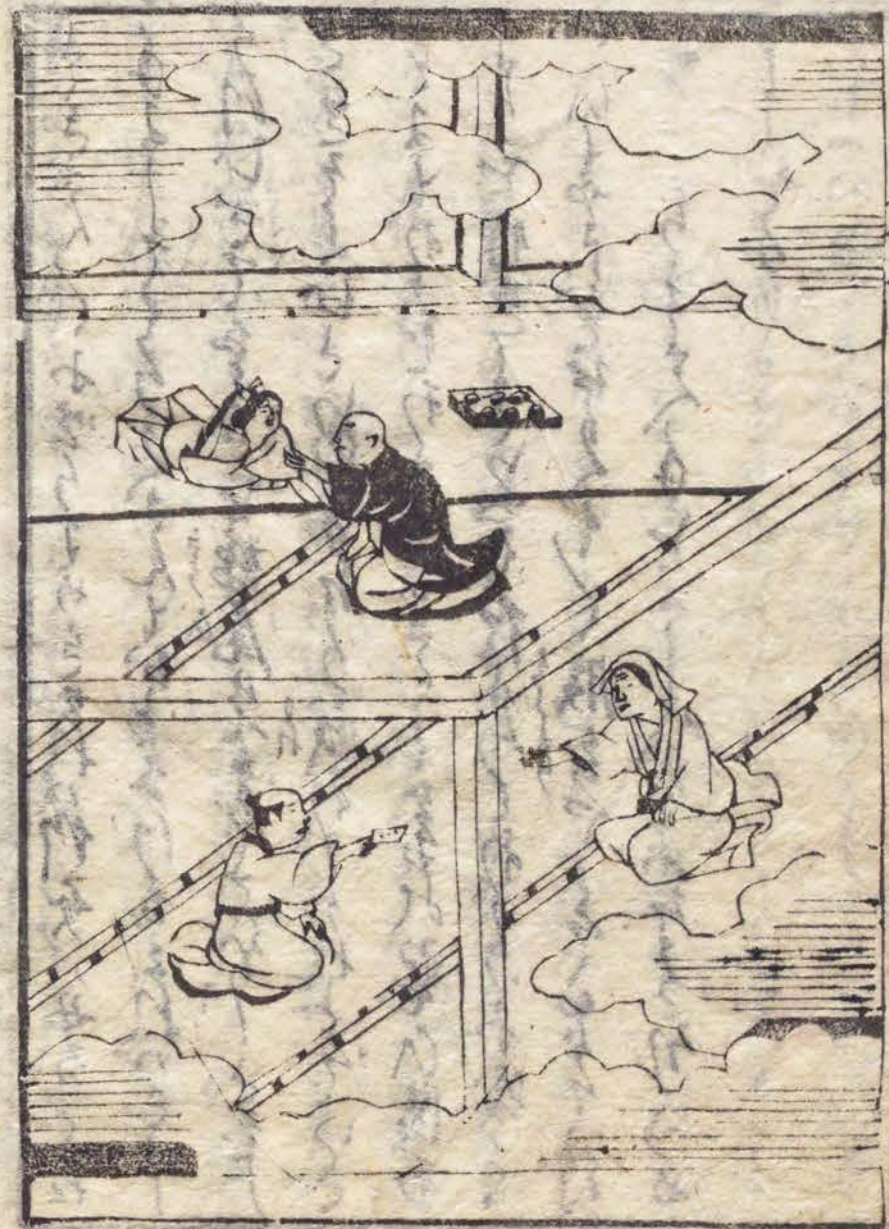
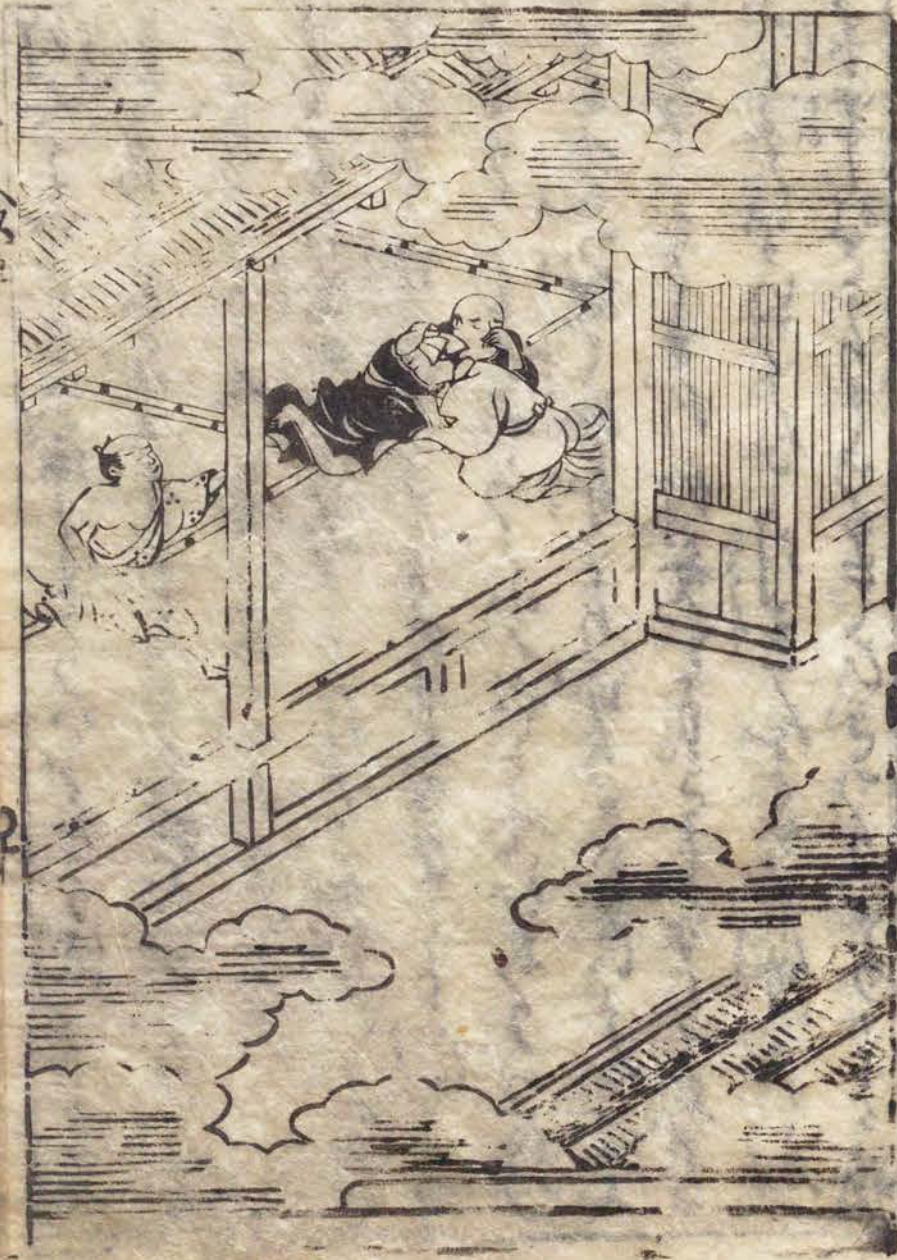
竹舞伴人

小山原苑寺の意は海つうと云百世ひとり娘
 とおろし極うと云方なる云方へ取け玉とらう
 此くまやうふつうと云ふは合此家下り
 も付しとそま一人しと云ふは方と云ふと杖揚付
 の丸廻と云ふと云ふれどもおろしと云方と云ふておろし
 小竹舞け女と云ふは一と云付なりをれをけらるん
 此れといつと云ふりともいへておれれおと云ふて
 内宛と補はる中と思案とめがらふと云ふは思修検換

(Faint, mostly illegible handwritten text within a rectangular border on the right page.)



路へくろくくぬわたりりつふてやりく鹿とて
みふとくしめきつてさまごもきりてしんねり
いそは舞臺をわがうまてんざれしとてすめ
事う何と限らずとてしむてきんふまがうしか
きこしきかたのいひいれはなぞわんごくとちん
とて又いそとてさういひててむけて



さよふまゝくいと^く鑑^{かん}養^{やう}なるく^くよ^よ好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と
尸^しあ^あ下^げの^の好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とも^もも^もれ^れぬ^ぬ美^み女^{にょ}の^の子^こ
尸^しく^くい^いん^んく^くよ^よと^とれ^れり^りく^くあ^あつ^つく^くう^うり^り腹^{はら}
血^ち流^{りゅう}ら^らう^うき^きが^があ^あひ^ひて^て今^{いま}い^いも^もや^や乾^{かん}く^くあ^あら^らあ
あ^あて^て上^{かみ}向^{むかひ}方^{かた}便^{べん}の^のは^はあ^ある^る色^{いろ}ハ^ハ何^{なに}と^とも^もは^は好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}
と^とも^もあ^あを^をつ^つさ^され^れく^くし^しよ^よい^いま^まと^と秋^{あき}く^く一^{いつ}休^{やすみ}休^{やすみ}一^{いつ}
め^めされ^れ我^{われ}あ^あが^が宗^{そう}宗^{そう}よ^より^り好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ
也^や経^{けい}よ^よし^しあ^ある^るく^くん^んん^んあ^あら^らい^いく^くも^も此^{こゝ}れ^れと^とい^い
少^{すく}ん^ん好^{こう}て^てん^ん尸^しと^とて^ても^も此^{こゝ}れ^れ鼻^{はな}の^の下^{した}に^にあ^あら^らあ
腹^{はら}に^にれ^れる^る色^{いろ}竹^{ちく}女^{にょ}と^と好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ

天^{てん}の^の三^{さん}玉^{ぎよく}の^のハ^ハ佛^{ぶつ}に^にあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ
く^く同^{どう}鼻^びと^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ
是^{こゝ}に^にあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ
也^やて^ても^もい^いく^くは^はあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ
人^{ひと}と^とわ^わら^らい^いく^くは^はあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ
好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ
それ^{それ}が^がれ^れ白^{しろ}喉^{のど}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ
も^もと^とあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ
け^け好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ
あ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ^ある^る好^{こう}竹^{ちく}女^{にょ}と^とい^いく^くは^はあ^あら^らあ

好竹女

好竹女

後と云う一かゝりなきにみまらぐ建の義小島に
 女はのれいあれ河原屋をばよといふくれさ
 らくくばれが勝てさうと死よとささぐさく
 ういひしるきいさくさくけあれ申よと他
 ことぬらひて平とくど一休等といふよと
 志のちをなかり念はよけりてせりんま
 勝のうくまゆとむねりへ像は末代の若男子
 若人帳物よと河原屋と念へ礼なり伏せ
 むすめけりてさくいさくさくさくさくさく
 されも河原屋の娘はさくさくさくさくさくさく

後と云う一かゝりなきにみまらぐ建の義小島に
 とくく指ゆびと丸めてんせちりさすする
 又よとトへあはるてまへまを像はん
 てはねとねらうとあひと早ひとそれ方おさるは
 とまへりいれをさしゆびとさうあてんさく
 なるきいざらとてさくこれわされさくさく
 しとさくさくさくさくさくさくさくさく
 鎮許て又向あれお地蔵と白とトハ男とさく
 女とさくさくさくさくさくさくさくさく
 若人のさくさくさくさくさくさくさくさく

めきりてくわしと見してけりていそはらうらうら
 す地いそはらうらうらとありていそはらうら
 とありていそはらうらうらとありていそはらうら
 あやうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 あれゆゆのいけりていそはらうらうらうら
 とありていそはらうらうらうらうらうらうら
 あいゆゆのいけりていそはらうらうらうら
 してさらのゆゆのいけりていそはらうらうら
 とありていそはらうらうらうらうらうらうら
 林のいそはらうらうらうらうらうらうらうら



ふらなり又此山はむいぢやぐとつてかく
ふらなり又此山はむいぢやぐとつてかく
ふらなり又此山はむいぢやぐとつてかく
ふらなり又此山はむいぢやぐとつてかく
ふらなり又此山はむいぢやぐとつてかく
ふらなり又此山はむいぢやぐとつてかく
ふらなり又此山はむいぢやぐとつてかく
ふらなり又此山はむいぢやぐとつてかく
ふらなり又此山はむいぢやぐとつてかく
ふらなり又此山はむいぢやぐとつてかく

はよふて丸くこころ小くこころり則之途川
流して洗濯して十王蓮花仕美世小くこころと
そはるる細又葉師めまはる戸ははれ持あつ
がよはれをへて玉後所ぞやそ又あつた
とつてあつたよとむわりあれは漢をりたりとつ
子細と先葉師めまはれと東方上瑞瑞世果
とつてあつた地持が漢をり漢をり漢をり
あつたそれゆへあつたつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



